

情報通信工学特別講義 レポート

濱崎 直紀

(学籍番号 : 28G19096)

令和2年10月6日

課題 1

本文.

課題 2

通信が行われていない間、通信機能を停止することで消費電力を抑制することが可能であると思います。より具体的には、ユーザーが利用しているかどうかを把握するシステムさえあれば、ユーザーが使用していない間は通信機能を停止させることで、大幅な電力の削減が見込めると思います。実際には、遅延などの問題から、使用時間と通信機能のオンオフを完全に同期させることは難しいと思います。そのような問題に対して、今後 AI などを活用して、どの時間にどれだけ通信に必要があるのかということを学習させ、自動的にオンオフ、また、完全に停止させなくとも、どれだけ抑制させるかということを機械に制御させるということが可能になれば、電力の削減に非常に大きく貢献すると思います。